

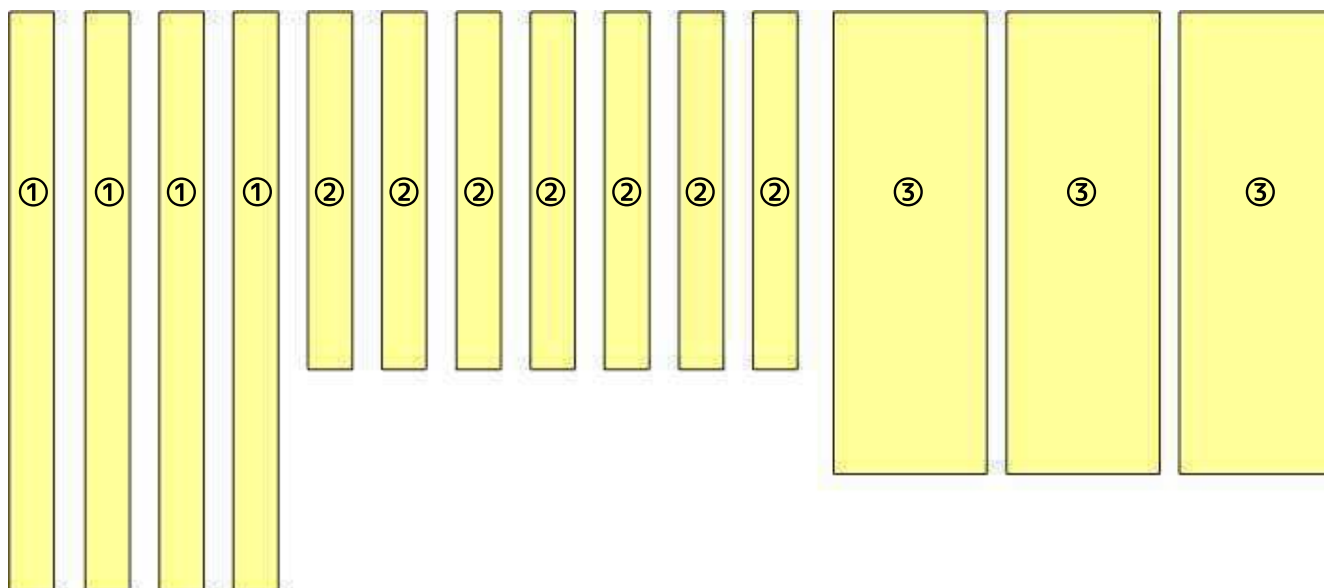
道具 (基本的なものを除く)

- ドリルドライバー ○下穴用ドリル又は 3mm 径ドリル ○スコヤ
- ノコギリ ○F クランプ ○サンドペーパー (240 番)
- スリムビス 30mm (座面用 12 本) 50mm (脚枠用 28 本)

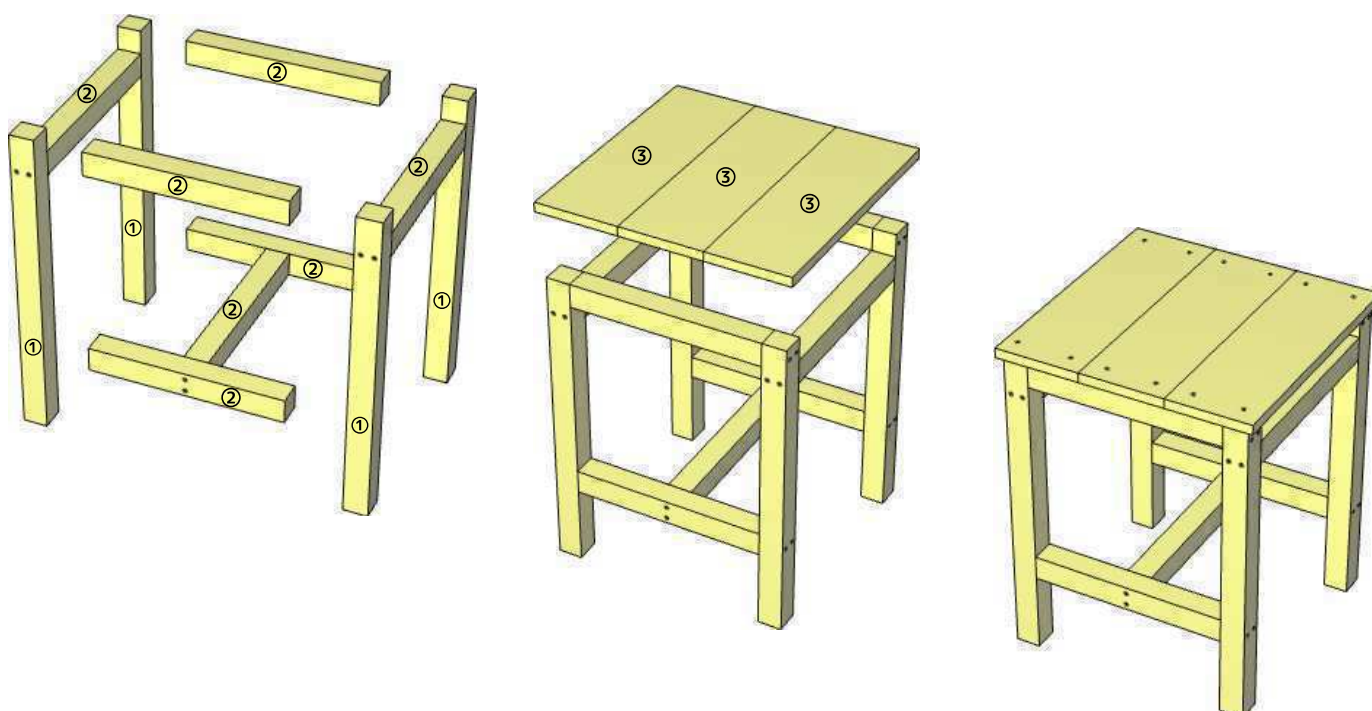
部材寸法 (厚み × 幅 × 長さ 単位は mm)

- ① 30 × 30 × 390 4 本
- ② 30 × 30 × 240 7 本
- ③ 10 × 103 × 309 3 枚

「木工 DIY の基本が詰まった
 ツールを作ってみました」
 youtube 動画で見る場合は
 こちらの QR コードから

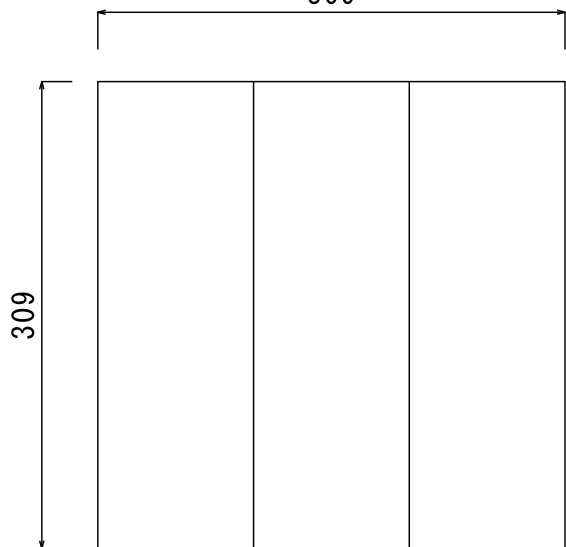


組立イメージ

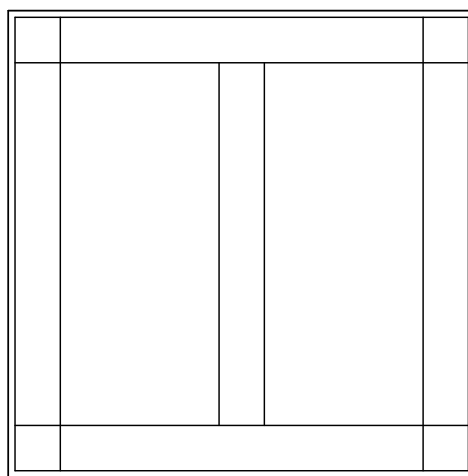


top

309

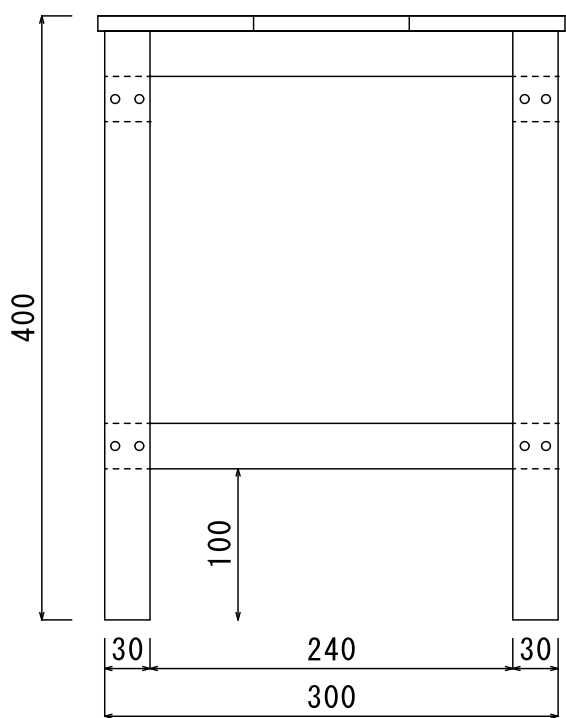


bottom



4.5

4.5

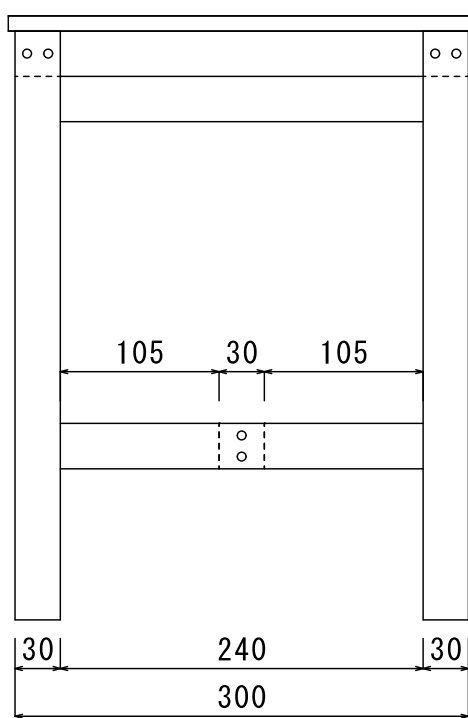


front

4.5

4.5

10




side

部材の寸法カット

1 部材寸法表を確認しながらノコギリで木材を必要な寸法にカットする。
寸法線を引いてフリーハンドでカットしてもいいですが、市販のノコギリガイドやカット専用の「ノコギリ治具」を作成すると、切断面の精度が上がり仕上がりも良くなるのでおすすめ。

角材用のノコギリ治具の製作動画はこちらから確認できます。
(you tube 動画)



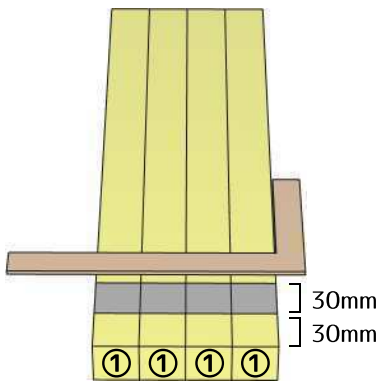
部材の墨付け

2 部材をカットしたら、組立時に接合部分がどこか分かるように墨線を引く。

複数の部材の同じ位置に線を引く場合は、まとめて引く事で効率もよく、寸法の誤差が出にくくなる。

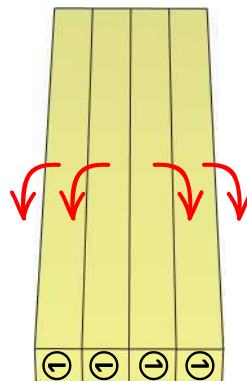
— 墨付け手順 —

部材①の4本の端から30mmとそこからさらに30mmに線を引く。(このとき4本の端を揃えておく事が重要)

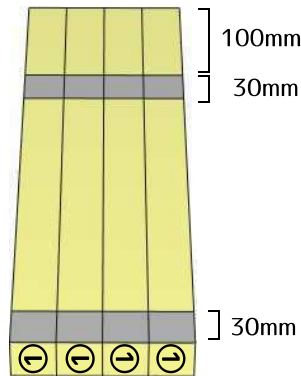


(※接合部分が分かりやすいように ■ で表示しています)

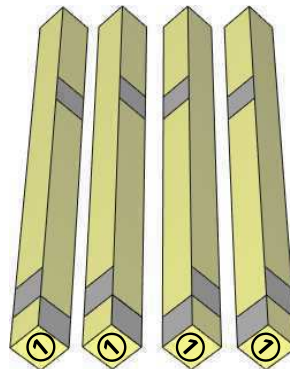
左の2本は左に90度回転、右の2本は右に90度回転させる。



下の端から30mm、上の端から100mm、そこから30mmに線を引く。

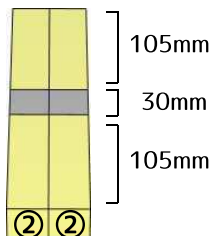


①の部材の墨付けが出来ました。図のように引けていればOK。



部材②の2本のみセンターに30mm幅の墨線を引く。

センターをマークして、そこから左右15mmに墨線を引くと左右の幅が均等になる。



ビスの下穴を開ける

3 部材の接合にはビスを使いますが、そのまま打ち込むと木が割れる可能性があります。下穴を開ける事で割れを防いでしっかり固定できるようになります。下穴はなるべく垂直になるように開ける。

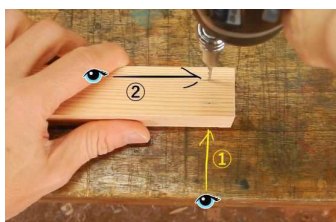
— 治具を作る —

複数の場所に同じ下穴を開ける時は、木片を使って簡単な治具（定規）を作ると穴開け加工がしやすくなる。

治具は部材カットの際に余った30mm角の端材を使って作る。（長さは150mmくらいでOK）ビス穴は外側から8mm、接合面の中心位置の15mmの場所に2つ開ける。

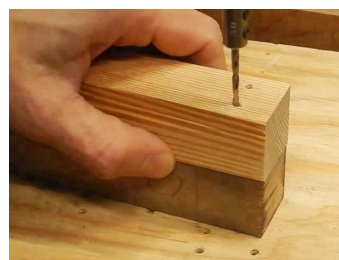


この時、穴あけ位置を表と裏の両方にマークしておき、材の厚みの半分の深さを両方から開ける。写真のように2方向から垂直を確認しながら開けると真っ直ぐに開けやすい。



治具を接合面に合わせて部材に乗せ、手でしっかり押し付けながら穴を開ける。

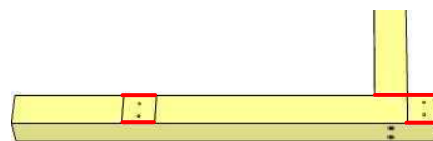
治具がガイドとなって位置決めと垂直穴開けを同時に行える。



面取り・ペーパー掛け

4 部材の角をカッターやサンドペーパーを使って丸くする。角を取ることで手で触れた時の肌あたりが優しくなる。たくさん削る必要はないので好みに仕上げる。部材同士が接合される部分は角を取ると隙間ができるので取らない。（※画像赤ラインのような部分）

表面に毛羽やザラつきがある場合はサンドペーパーで削って整える。



— 座板の角を丸くする —

座板の角を少し丸くしておくとツールの雰囲気柔らかくなる。好みに合わせてRの大きさを変えて加工する。（加工箇所は角の4箇所）

- 1、ペットボトルのフタなどで丸い線を引く。
- 2、線の外側をノコギリで切り落とす。

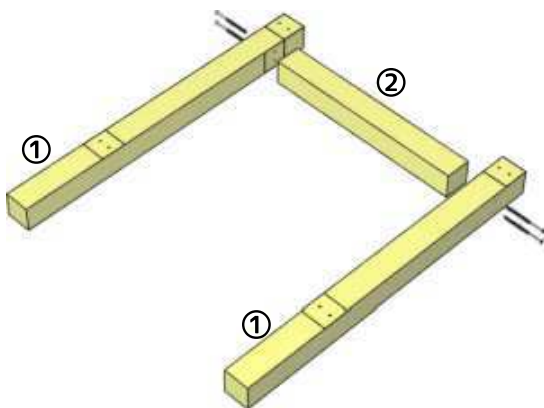


3、ペーパーで整える。



組立

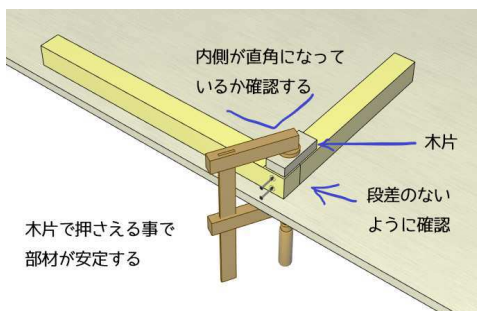
- 5-1 各パーツを組立てる。
 接合面には木工用接着剤を塗り、部材同士をクランプで押さえてビス止めしていく。
 ①は左右対称のペアになっているか**墨線の向き**に注意する。②は墨付けをしていない物を使う。
 同じ物を**2組**作る。



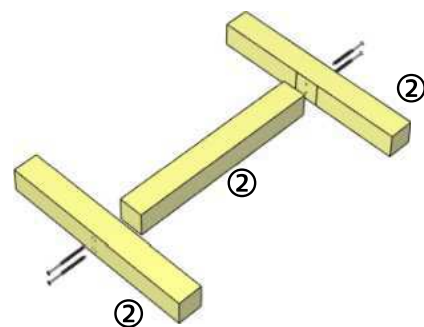
接続後、はみ出した接着剤を塗らしたウエスで拭き取っておく。

ービス止めのポイントー

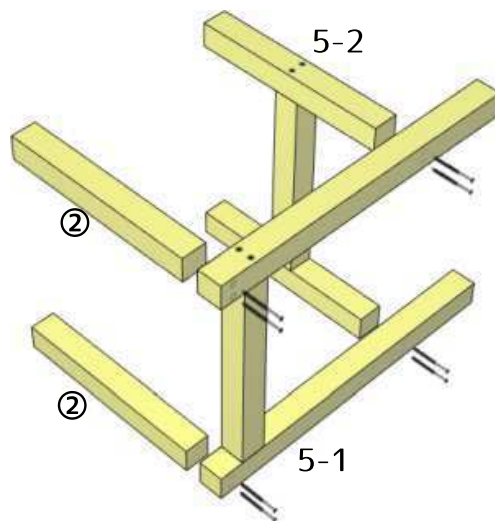
木片を乗せて部材同士をクランプで固定するとどちらも動かないのでビス止めが安定して行える。この時、取付角度が直角になっているかをスコヤで確認してからビスで止める。
 (※木片の裏側にサンドペーパーを貼り付けておくと更にしっかりと保持ができる)



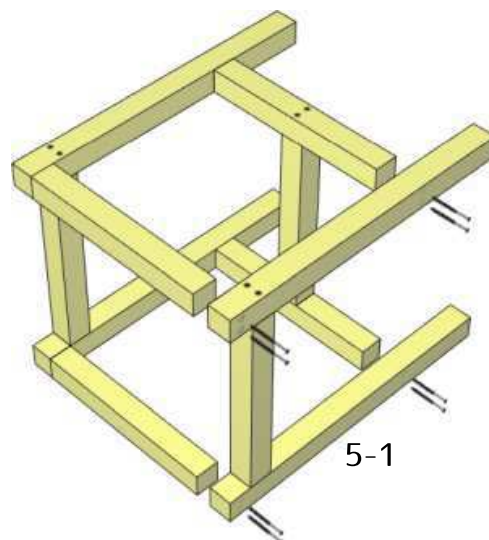
- 5-2 貫部分のパーツを組立てる。
 外側の②は墨付けした物を使う。



- 5-3 パーツ 5-1 とパーツ 5-2、②の 2本を組立てる。
 1箇所ずつクランプで固定しながらビス止めする。

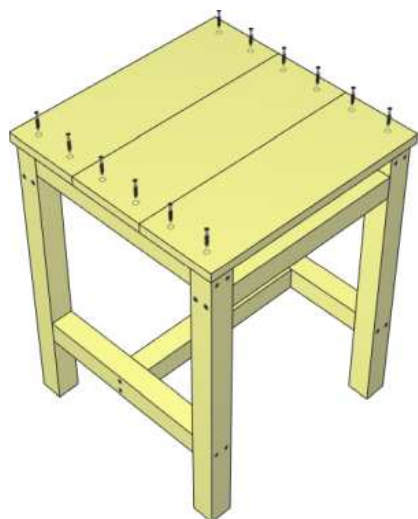
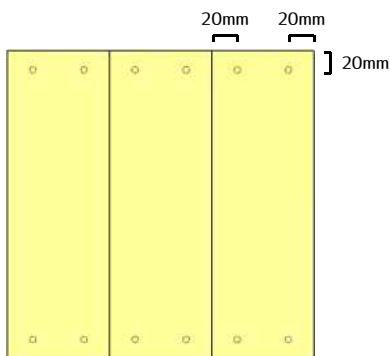


- 5-4 手前と奥の位置を入れ替えて、残った 5-1 のパーツを組立てる。
 4箇所を同時に接着材を付けて組立ますが、落ちていて確実にビスで止めていく。



5-5 座板を取り付ける。
 (使用ビス 30mm)
 割れ防止の為に座板にビスの下穴を開ける。
 (位置は画像を確認)

3枚を枠に仮置きして位置を調整しビスで止める。
 クランプで固定しながらビスを止めるとズレにくく
 作業しやすい。



着色・オイル塗装

6 好みて着色するのも楽しい。
 単色であれば組立て後でもいいが、部材によって
 複数の色を使う場合は組立ての前に着色するほうが
 塗りやすい。
 家具用塗料もホームセンターで数多く売られて
 いるが、お手軽で扱いやすいのは水性絵の具。
 ハケで薄く塗って木目を強調したり、塗った後に
 ペーパーで部分的に削ると雰囲気が出て面白い。
 それぞれのオリジナリティを出してみしてほしい。

着色の基本を動画で見る
 場合はこちらのQRコードから



オイル塗装は木材の表面に塗膜を作って汚れから
 保護する効果と、木材が濡れ色になる事で木の風合
 いが良くなる効果がある。
 家具用の植物オイルがホームセンターに売られて
 いる。亜麻仁油や荏油が主原料の物が扱いやすい。
 乾燥に時間が掛かるが食用のオイルでも代用できる。

塗り方はウエスにオイルを取り、塗り広げる。
 仕上げに新しいウエスで余分なオイルを拭取る。
 1~2日乾燥させ、もう一度同じようにオイルを
 塗って仕上げ、乾燥させる。



オイル塗装の基本を動画で見る
 場合はこちらのQRコードから

